

2018年（平成30年）2月7日

ホテル運営のノウハウをオムロングループに提供し ICT活用によるホテル運営効率化に向けた端末開発に協力 セルフチェックイン端末「スマーレ」を導入

株式会社相鉄ホテルマネジメント

相鉄グループの(株)相鉄ホテルマネジメント（本社・横浜市西区、社長・吉田修）では、2018年（平成30年）秋からセルフチェックイン端末「スマーレ」を直営の宿泊特化型ホテル「相鉄フレッサイン」、「ホテルサンルート」に順次導入（予定）します。

これは、相鉄グループと、ホテル業務のオートメーション事業に新規参入されるオムロン ソーシャルソリューションズ(株)（以下、OSS、本社・東京都港区、社長・細井俊夫）との連携により開発されたものです。宿泊されるお客さまご自身が簡単な操作でチェックイン手続きを行えるもので、同社が進めるセルフチェックイン端末の開発に相鉄グループのホテル運営ノウハウを提供したことで製品化されます。

国内の宿泊特化型ホテル事業は、政府の観光立国推進の取り組みや今後予定されている国際的なスポーツイベントなどにより訪日外国人が増加している一方、宿泊需要の増加を背景とした新規参入による競争の激化や労働力人口の減少、2018年（平成30年）6月に住宅宿泊事業法（民泊新法）が施行されるなどにより、事業環境は更に厳しくなっていくものと予想されます。ホテル事業を主要な成長セグメントと位置づけている相鉄グループでは、更なる顧客満足度の向上、ICT（情報通信技術）などを活用した運営の効率化・省力化を課題としていることから、OSSとの連携により開発された同端末を今秋以降に開業または改装する「相鉄フレッサイン」、「ホテルサンルート」に順次導入（予定）します。

今後も常にお客さま満足度の高いホテルチェーンであり続けるため、継続して様々な研究をパートナー企業と共に進めてまいります。

概要は、別紙のとおりです。



ホテル運営のノウハウを提供し製品化される
セルフチェック端末「スマーレ」（イメージ）

セルフチェックイン端末「スマーレ」の概要

ホテル現場の運用ノウハウをもとにつくり込んだ、操作性の高い最新のハードウェアとソフトウェアを搭載。チェックイン手続きを端末で完結出来るため、ホテルスタッフの効率化・省力化を実現します。

1. 「日本語・英語・韓国語・中国語簡体・中国語繁体」での 画面表示 と 音声案内
2. 視認性が高く、電子署名も可能な 19インチ大画面タッチパネル（スクエア型最大クラス）
3. 使いやすい 画面フロー と 画面ユーザーインターフェース
4. 将来の遠隔フロント対応や顔認証での利用も想定した前面及び手元操作部の ネットワークカメラ
5. クレジットカードは操作性の高いオートローディング式で、2019年度（平成31年度）中にクレジットICに対応予定

株式会社相鉄ホテルマネジメントの概要

会 社 名	株式会社相鉄ホテルマネジメント
所 在 地	横浜市西区北幸二丁目9番14号
資 本 金	1億円
出資会社	相鉄ホールディングス(株) 100%出資
社 長	吉田修（(株)相鉄ホテル開発代表取締役兼任）
設 立	2017年（平成29年）7月14日
事業内容	宿泊特化型ホテルの運営、フランチャイズ業ほか

※相鉄イン(株)、(株)サンルートのホテル事業は2017年（平成29年）10月1日に、(株)相鉄ホテルマネジメントに会社分割（吸収分割）しました。